

秋期巡教のご案内

本年も左記のとおり秋期巡教が行われます。仏教・禅の教えを布教師の和尚様が、わかりやすくお話してくださいます。菩提寺の檀信徒の皆様はもちろん、お知り合いの方々もお誘い合わせて聴講くださいますよう、ご案内申し上げます。

平成二十九年度
講師 南禅寺派 宝泉寺住職 藤本大器 師
演題 「当処すなわち蓮華国」

◎開教日程表

9月26日(火)	午前十時	浜松市北区引佐町	方広寺
	午後二時	浜松市北区引佐町	定林寺
	午後七時	浜松市北区引佐町	長興寺
9月27日(水)	午前十時	新城市井代	宝珠院
	午後二時	浜松市北区根洗町	龍保寺
9月28日(木)	午前十時	浜松市天竜区熊	光雲寺
	午後二時	浜松市浜北区宮口	庚申寺
9月29日(金)	午前十時	浜松市東区中郡町	慶福寺
	午後二時	浜松市浜北区内野	福応寺
9月30日(土)	午前十時	浜松市中区助信町	善信寺
	午後二時	浜松市中区向宿	寿量院
10月1日(日)	午前十時	浜松市南区西町	林泉寺
	午後二時	浜松市東区大蒲町	光禅寺
10月2日(月)	午前十時	浜松市南区増楽町	増楽寺
	午後二時	浜松市西区雄踏町	自保院
	午後十時	浜松市中区富塚町	法林寺
10月3日(火)	午後二時	浜松市西区舞阪町	宝珠院

お稚児さん募集

毎年十月に開かれる「奥山半僧坊大祭」の行事のなかに、渡御行列があります。稚児の衣装を着て保護者の方とともに行列に加わります。半僧坊の御加護をいただき、お子様の一生涯を通じた記念となります。ぜひご応募ください。

日時 平成二十九年十月十五日(日)
場所 大本山方広寺(奥山半僧坊)
参加費 四千三百円より(レンタル品により変動します)

お申し込み・お問い合わせは、
方広寺 ☎〇五三―五四三―〇〇〇三(涌出・松原)まで。
平成二十九年九月十五日までにお申し込み下さい。

高町別院 禅会のご案内

高町にあります別院・正福寺にて、毎月第四土曜日に禅会を行っております。夕方五時より管長親下による提唱、六時頃より坐禅を行います。月に一度は静かに坐つて、心を調えましょう。初めて参加される方には説明をしますので、十分前にはご集合下さい。

◎禅会日程(予定)

6月24日 7月22日 8月…休講
9月16日 10月28日 11月25日
*いずれも午後五時より午後七時頃まで
*9月のみ、第三土曜日開催となります
*中止の場合には別院・正福寺の掲示板にてお知らせします

「福無尽」

方広寺派管長

大井際断老大師

「白隠禅師

一二五〇年遠諱慶讃」

本年は我が臨済禅の中興の祖と仰がれている白隠禅師の二五〇年御遠諱の正当年であります。昨年から本年にかけて臨済宗各派及び黄檗宗が、あげて慶讃記念行事及び法要をお勤めいたしております。

管長親下御揮毫の「福無尽」は白隠禅師坐禅和讃にある「辱なくも此の法を 一たび耳にふるる時 讃歎随喜する人は 福を得ること限り無し」を一語でお示し賜りました。

今年のお盆は、白隠禅師のお諭しを胸間に抱いてお迎えしたいものであります。

あなたの菩提寺の山門施餓鬼は
月 日 午 時からです
お誘い合わせご参詣下さい

仏壇・位牌・お香・寺院用具
塗物・金箔・位牌の書き入れ
常時承ります

浜北のぬしや

浜松市浜北区貴布祢504-7 (二俣街道沿) 美園中央公園駅下車
TEL 053-586-2779 定休日 水曜日
FAX 053-586-8779



寺院莊厳仏具 仏壇 仏像彫刻
山梨仏具店

〒421-0422 静岡県牧之原市静波2020-1
TEL 0548-22-0818 FAX 0548-22-5164

<http://shizunami.jp/> 静波伝統技法研究社

仏まつりの御道具類
薫りゆかしき御香の類

(株)ぬし幸

浜松市中区田町
電話 〈053〉453-1481

臨済宗法衣仏具調達所

澤野法衣店

〒615-8238 京都市西京区山田車塚町15-81
電話 075(392)6181 振替口座 京都0-4955
FAX 075(391)6181

井伊谷に新橋二つを架けた白隠禅師

方広寺派宗務総長 巨島 泰雄

今から二五七年前の寛保二年（一七四二）に井伊谷の地に白隠禅師が来訪されました。

今、「女城主直虎」で全国にその名が知れ渡っている龍潭寺（妙心寺派）では、この年、井伊氏始祖共保公の没後六五〇年の遠諱を迎えていました。井伊氏代々の御廟所が新たに建替えられ、彦根藩第八代直定公をお迎えして八月一日に御遠諱が催されることとなりました。白隠禅師はこの大法要に招請され、百人に及ぶ修行僧を引連れ三か月に亘る結成（坐禅や一般への説法教化）に向われたのであります。

白隠禅師御一行は、原宿を出立、四日目の午後、龍潭寺住持等が迎えに出た祝田一本松に着きました。禅師は用意された肩輿こしに乗られ、金指関所を経て上野（井伊谷東側）で川を渡り井伊谷の町筋に入り西進、龍潭寺を間近にした矢畑で再び川に直面しました。この時、橋は直前的大雨で流されていて禅師の肩輿を担ぐ人達が腰までの水を掻き分け渡り始めると続く修行僧達も衣を腰まで捲まくり上げ多勢がやつとの思いで

川を渡り龍潭寺に入られました。

二、三日後に白隠禅師は、二三の供を伴い隣村の金指実相寺を訪問、実相寺龍溪和尚は白隠禅師と修行時代からの旧識であり、その弟子大拙は禅師の鉗けん鉗けんを受けた御縁があり話も弾み一泊なされました。

翌朝、帰ろうとされましたが、夜半からの豪雨で谷津川の板橋が流されていて、止むなく水勢の弱まりを待ち、夕刻になって人の肩を借りてやつと川を渡り、龍潭寺に戻られました。

数日のうちに二度も橋のない危険な渡河を余儀なくされ、この地の人々が多大な難儀を強いられていることを知った白隠禅師は、翌日、高座台に上ると聴衆の善男善女に「日々暮らしに欠かせない川に橋を架けるのは、お互いに善縁を結び、徳を積むに最たるものじゃ、遠近の緇し素（出家と俗人）が力を合わせ、日をかけて浄財を募れば、必ず落成の日が迎えられる。」と、早速に化縁法を製し、自らに受けた施入銭（布施）四十貫文（四十両）を添えて早速に化縁を始められました。矢畑川架橋の世話役に神宮寺村の大通院と自耕庵（現妙雲寺・直虎ゆかりの寺）、井伊谷村の谷津川架橋には元海と円通寺庵主が当てられました。（以上白隠著『荊叢毒藥』

白隠禅師と禅画・墨跡

今年は「臨済宗中興の祖」と呼ばれる白隠禅師が遷化（お亡くなりになること）されて、二百五十年になります。方広寺派では去る三月ゝ四月にかけて、白隠禅師が開山となる三島・龍澤寺へ檀信徒の皆さんと参拝させていただきました。

白隠禅師は駿河（静岡県沼津市原）の人で、十五歳で地元地元の松蔭寺で出家し、慧鶴と名付けられました。諸国行脚の後、信濃飯山の正受老人のもとで大悟。禅師はその生涯で「大悟十八度、小悟その数を知らず」といわれ、悟後の修行を重ねました。

そして自らの悟りの体験から、「公案」（禅の問題）の体系化を成し遂げます。臨済宗の修行僧は、師匠から与えられた公案に参究することで修行を進めるのですが、その体系化を図ったのが白隠禅師なのです。方広寺の管長猥下をはじめ、



白隠禅師筆『百寿』（方廣寺蔵）

臨済宗の老師様は白隠禅師の法の流れを汲んでいます。そのため、白隠禅師は「日本臨済宗中興の祖」として尊ばれているのです。

また、白隠禅師は民衆にわかりやすく禅の教えを説くため、たくさんたくさんの禅画を書きました。字が読めない人でも、絵を見て禅の教えに触れて欲しい、と考えたのです。方広寺派寺院が多くある遠州・三河にも白隠禅師は訪れて、多くの禅画や墨跡を残しています。

そこで方広寺では、地元のお寺にある白隠禅師の禅画や墨跡を集め、「遠州の白隠禅画・墨跡展」を八月末日まで開催しております。近年は芸術作品としても高い評価を受けている白隠禅師の禅画。是非ご覧頂き、白隠禅師の教えに触れていただければ幸いです。

その後二年余を経た延享二年（一七四五）二月に白隠禅師が発願した新橋は立派に完成されました。矢畑川に架けられた神宮寺橋、もう一方の谷津川は少し上流で当時の金指から井伊谷に入る正規の往還に架けられて天神橋と云いました。落成の報告を受けた白隠禅師は「立派な宝塔を建立することに勝りけり」と賞嘆なされました。

この二つの橋は、第二次大戦の頃まで地元の古老達は「白隠橋」と呼び習わしていたと伝えられております。

癒いよ、暑さも増してお盆を迎える時節になりました。白隠禅師が当地に遣されたご遺徳を偲び、ご先祖様のご供養をお勤めいただければこれも白隠禅師への報恩の一助になるうかと存じます。

末筆乍ら不肖、本年二月から総長の席を汚しております。誠に未熟者であります、何とぞご法愛を賜わりますようお願い申し上げます。



半僧坊大祭について

方広寺では、鎮守・奥山半僧坊大権現の大祭を毎年十月に行っております。本年は、左記のような日程で開催を予定しております。津軽三味線の演奏や、投げ餅なども行われますので、ぜひご参詣ください。（当日は入山無料・堂内拝観のみ有料となります）

■開催日

十月十五日（日） 十時～十六時

* 少雨開催

■大祭日程

十時	大祭大祈禱・神楽奉納
十二時	稚児祈禱
十三時	渡御・稚児行列
	御旅所到着後、神事・放生会 （奥山グラウンド）
十四時	子ども神輿おねり
十五時	津軽三味線・吹奏楽
十六時	投げ餅（本堂前） （本堂前・予定）

